

死んだクモはどこへ行く

死んだ ケモノ はどこ へ行く

※2019年10月に発行された本の
再録です。



いっは.....



がいはっ



もしや・・・
あの中庭か・・・？



この声は・・・

今

さん・・・
サンディ？

まさかまた何か企んでいるんじゃないだろうな……

違うって

ソ
ワ
ア
...



今回オレは何もしてないぜ？

.....

ここは・・・
どこなんだ・・・？

死んだ
ケモノ
はどこ
へ行く



ここも見覚えがあるなあ

まさか落ちた先が
研究所とはねえ
っついてるのか
ついてないんだか

本当に貴様は何も
やってないんだな？
さっきから演技がましいぞ

何もやってないって
まあファーさんが
作ったこの身体なら
これくらいできても
おかしくないけどね

貴様と会話していると
頭が痛くなってくる…



じゃあ早くここから
出ないと

サンデイ?





何だか力が……
吸い取られているような……

なるほど……





おいっ！
何をっ……！

魔力の受け渡しだよ。

まあキスだと
ちよつとしか
効果がないけどねー

先に理由を言え

!!!!!!

カッカするなよ。
オレは君のことを思って
キスしてあげたんだぜ？

ニミニミニミ

まあでもこれだけじゃあ
せいぜい5分ぐらいしか
持たないし、そうだな……

……



今すぐに楽になりたいなら…
オレと姦淫…するしかないけど

どう？



……理解できないんだが

大丈夫大丈夫、オレが
気持ちよくしてあげるから

何一つ
大丈夫じゃ
ないぞ

全く理解できないが、
今の俺にはとにかく
生きる術が必要だった



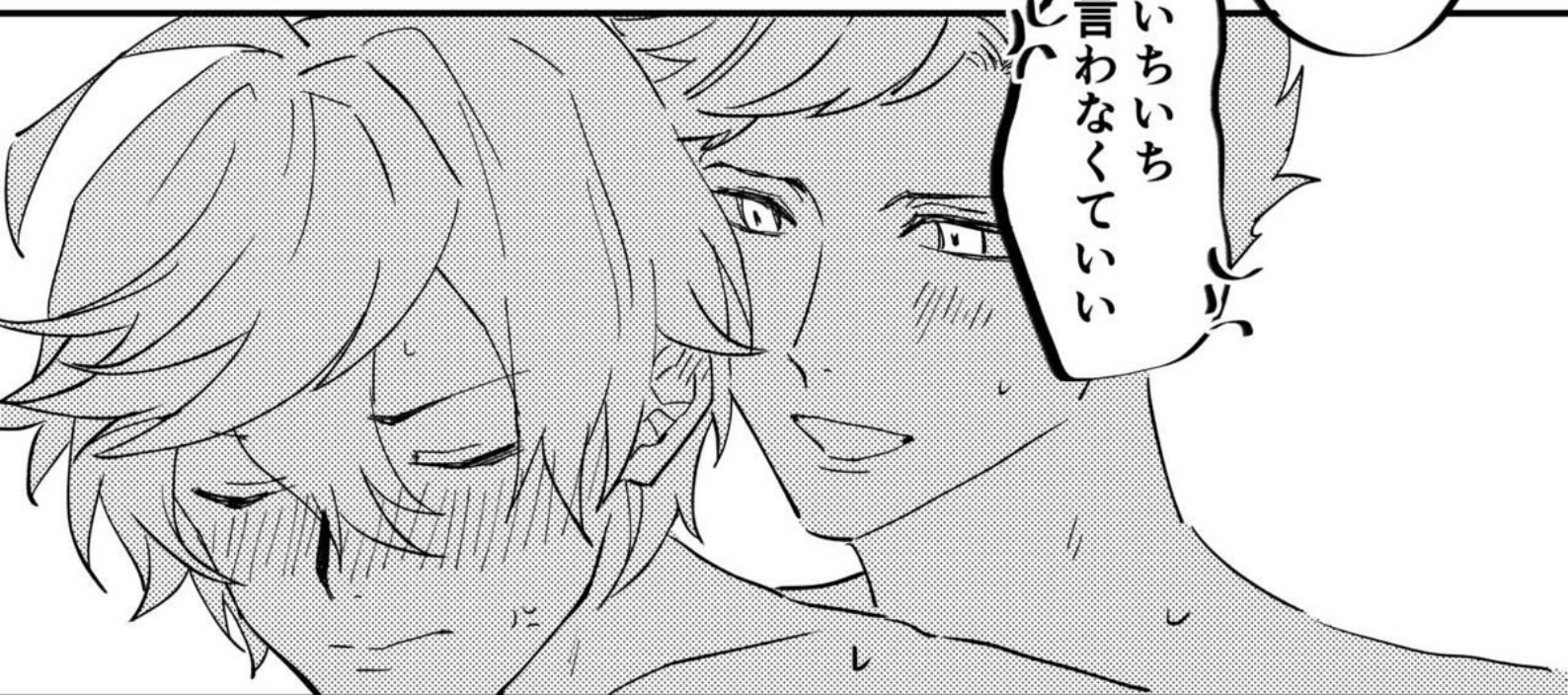
そう思いまんまと
了承してしまった
ことを今とても
後悔している





サンディ、
挿れるよ

くちゅ
くちゅ
くちゅ



いちいち
言わなくていい



くちゅ
くちゅ
くちゅ

うわぁぁぁ
……



サンディもしかして
声出すの我慢してる？



ビクッ

屈辱だ



完全に調子に乗っているな……

せっかくだから
聞かせてよ



出すわけ
無いだろ!!

無視

ふん

かッ
はッ







これで
終わった…よな？



ほ？

残念だけどサンデイ、
一回出しただけじゃ
そんなに持たないんだよ

一回昇天するまで
やってみようか

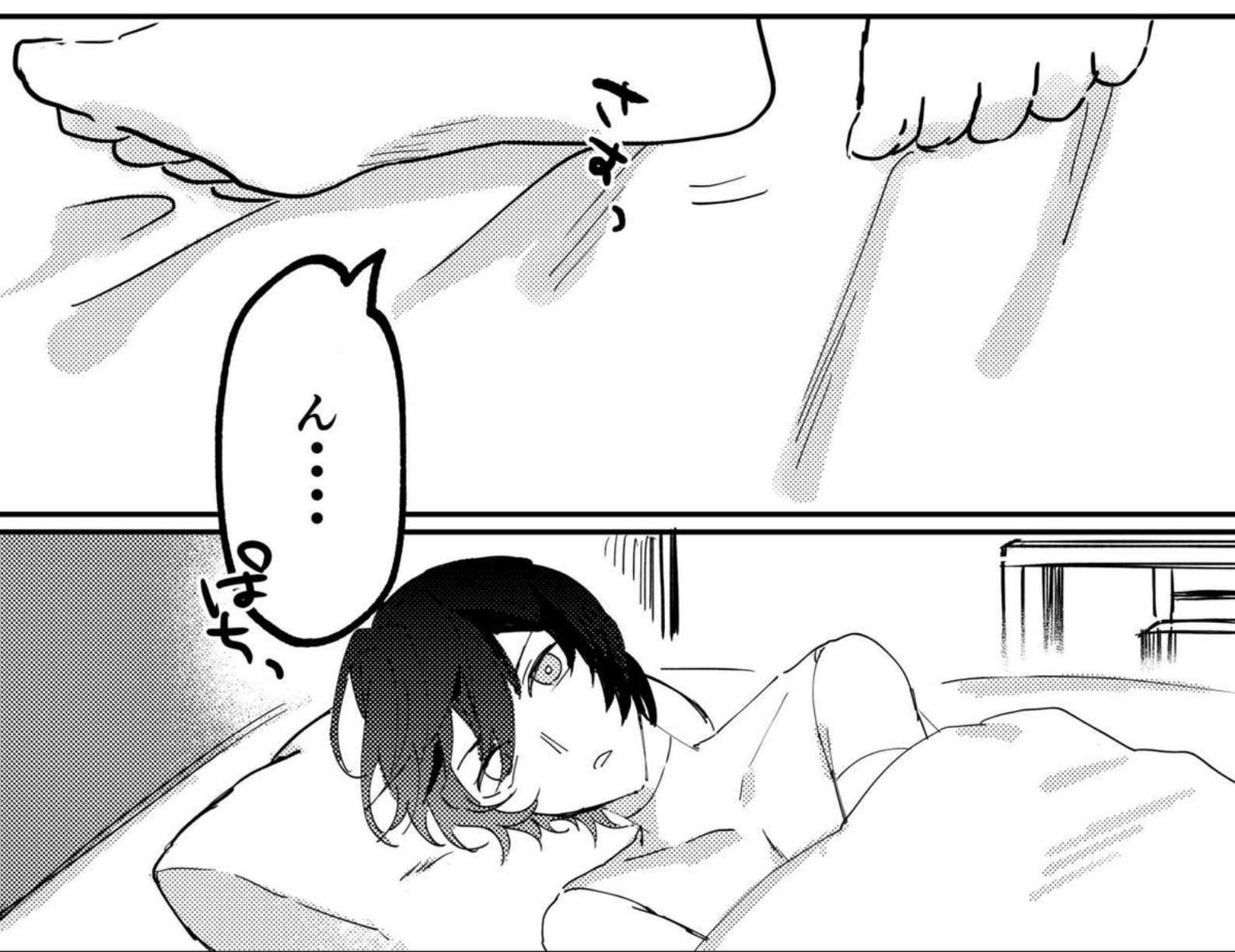
そして…

見るな

俺の身体に魔力が
充ち満ちるまで、
俺はベリアルに
魔力を注ぎ込まれた

終始好きなように
されているようで
嫌な気分だったが

そうしているうちに
俺の中はこいつの
魔力でいっぱいになった







キミが寝ている間に
周辺を見回ってきたけど……



魔物が造ったにはしては
よくできてる

俺たちの記憶か、
何らかの力に作動した、
のだろうか……



その説が濃厚だね。

……そうか

でもオレたち以外の天司や
星の民は全く見当たらなかったよ

まだ奥の区画には行っていないから、
今日はそこに行こうと思うけど・・・
キミは？



サンダルフォン！
サンダルフォンさん！

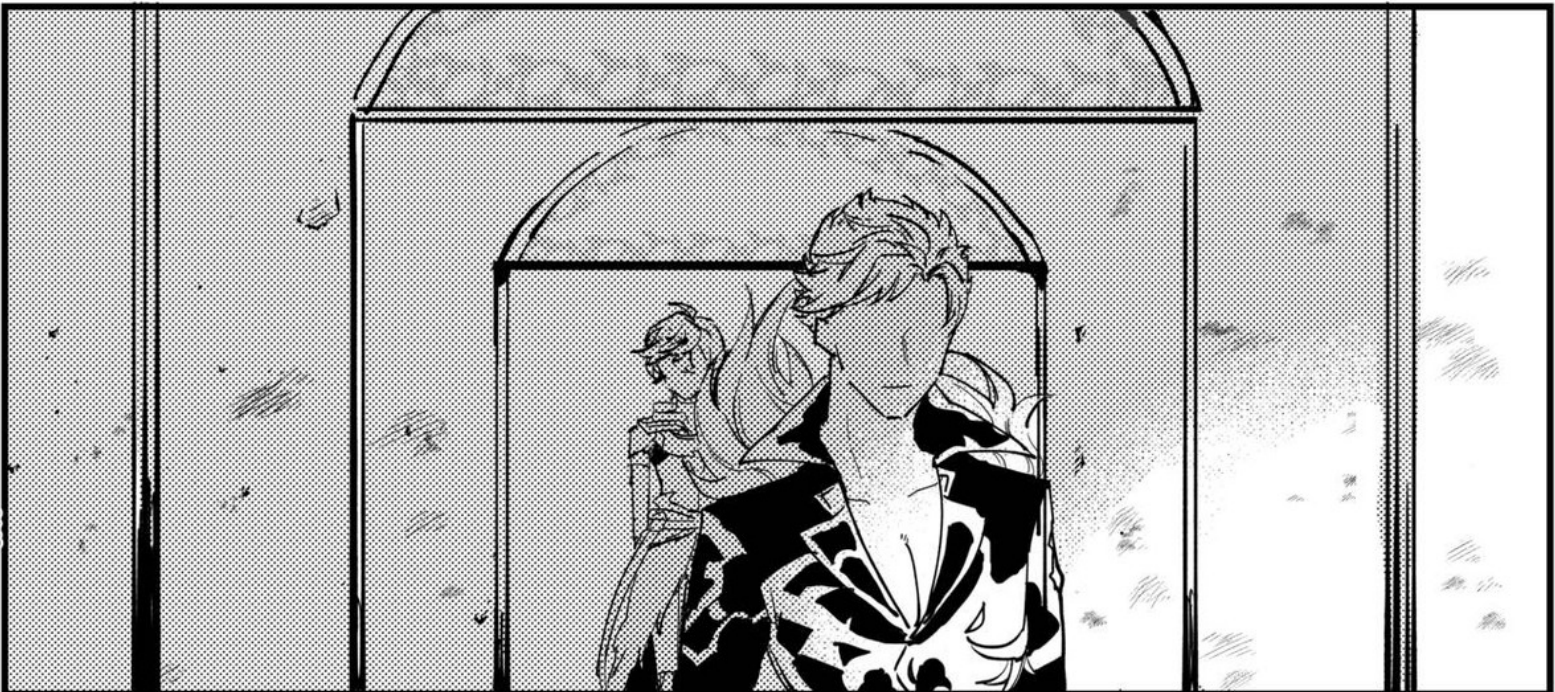
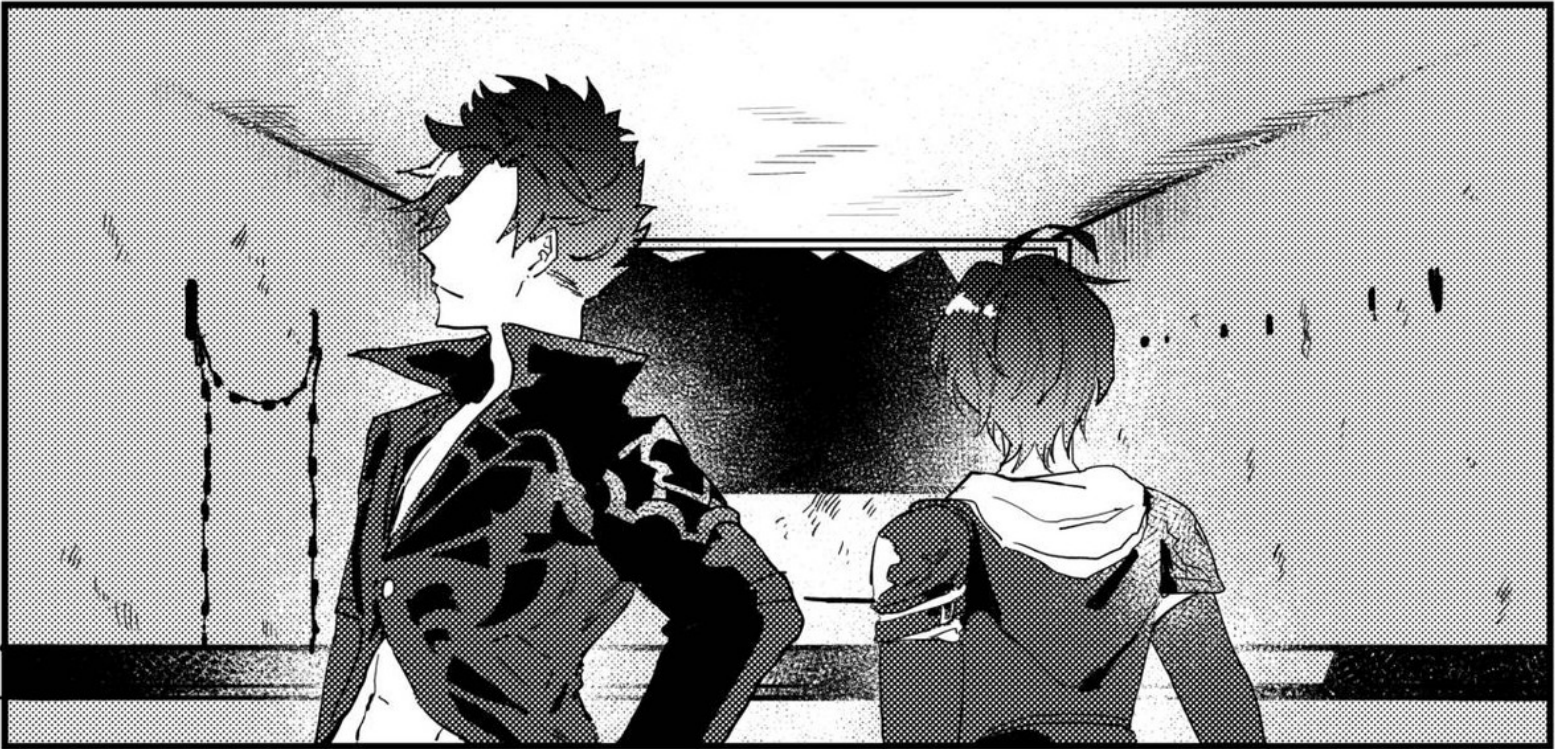
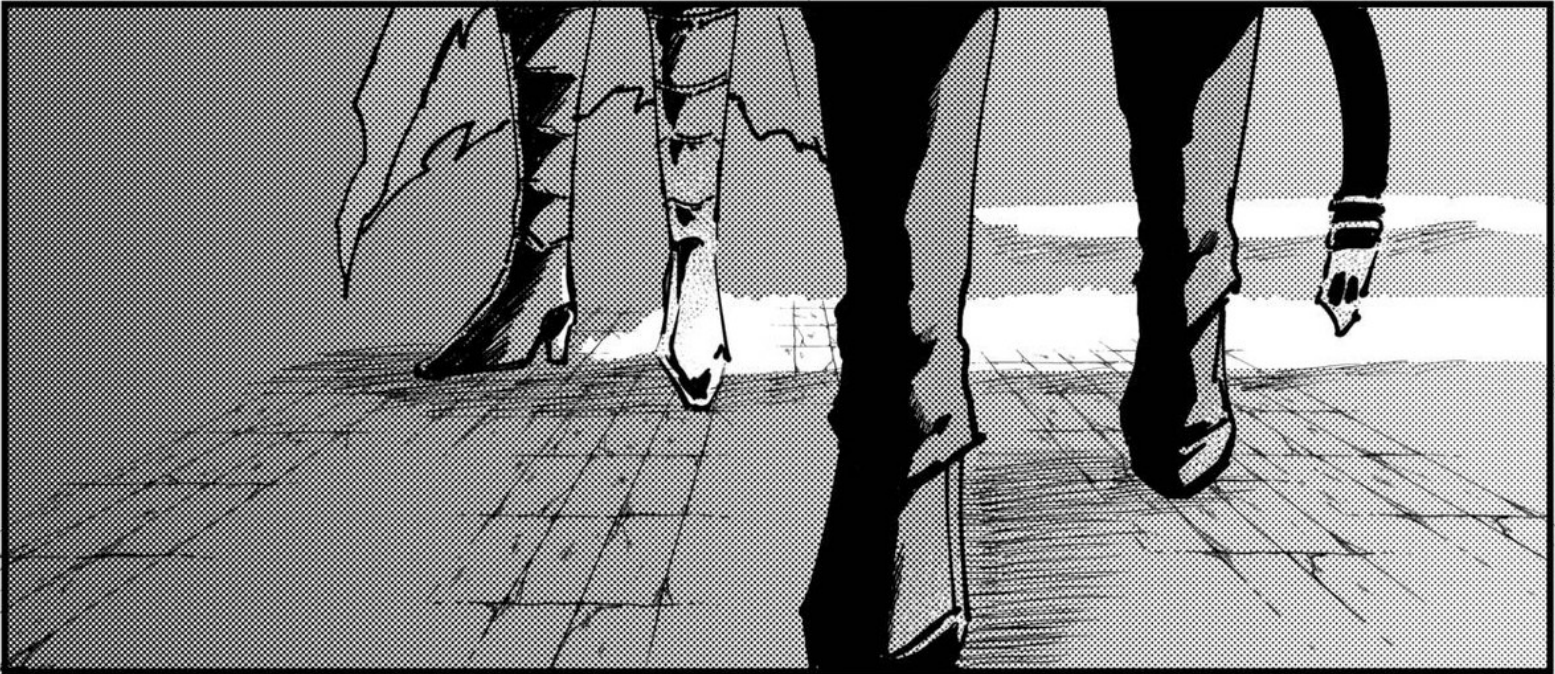


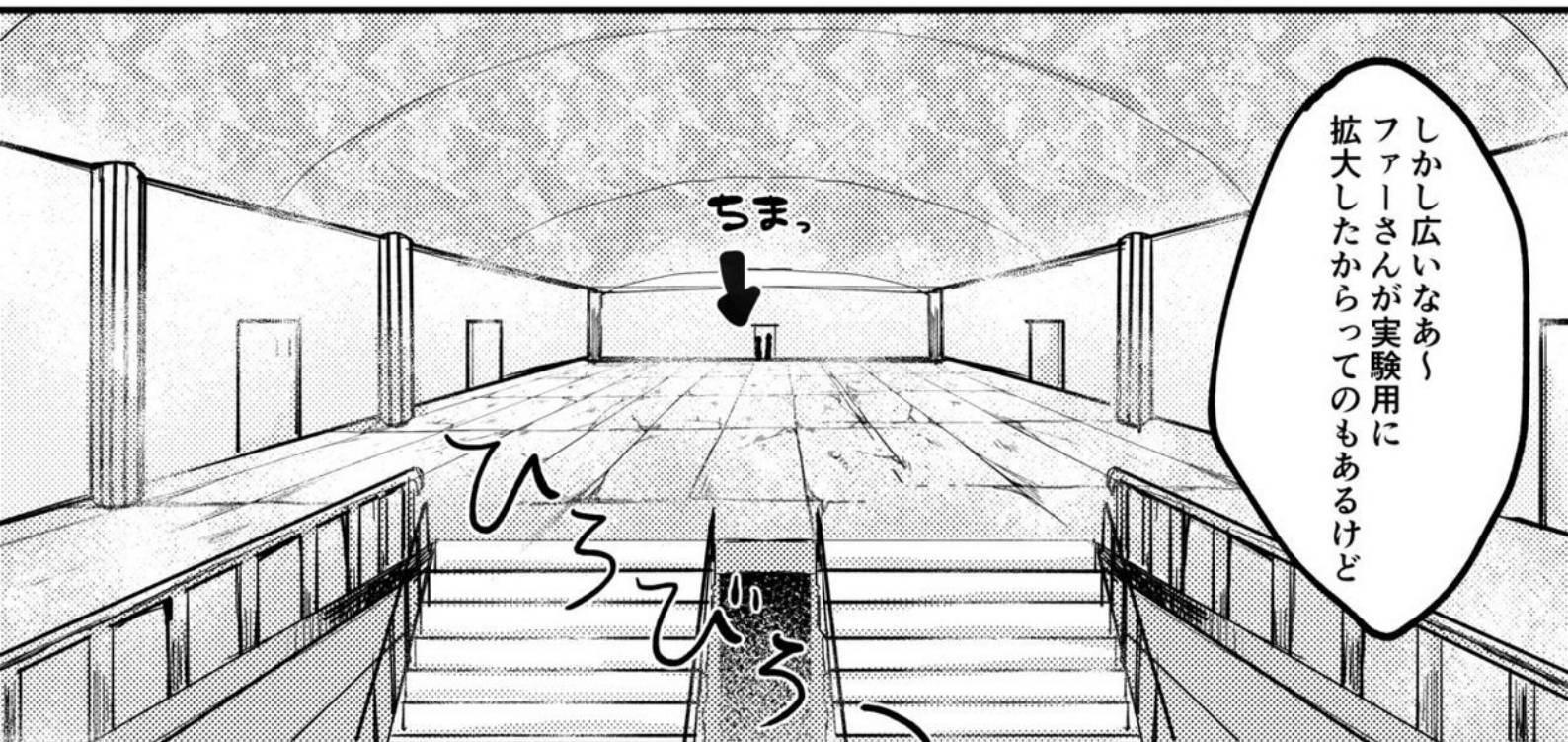
早くここから出る事が先決だ

行く

じゃあ飲み終わったら行こうか

オーケー







その方が効率がいい
俺は上へ行く



じゃあオレは下に。

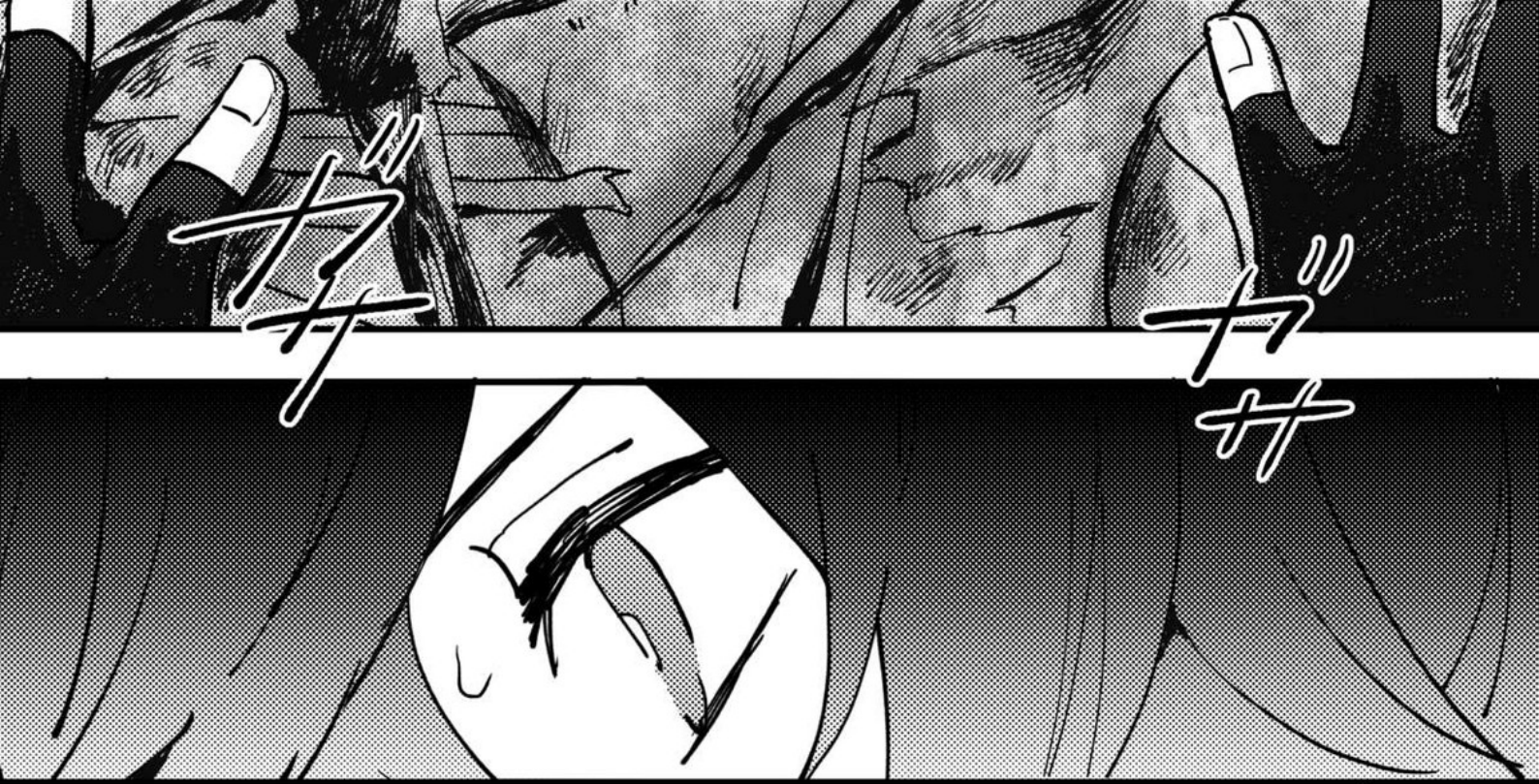


せいぜい
やられないようにね

あいつは何を考えている？

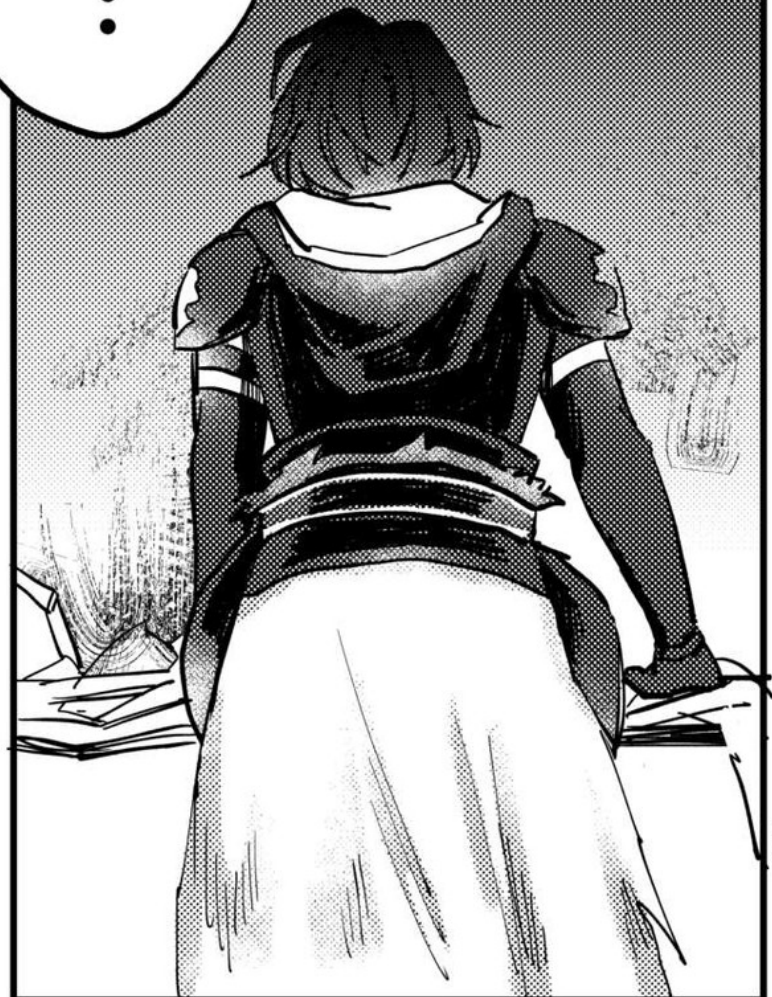






そうかい？
オレはそうは思わないが

ひどく……





ッ

やあサンデイ、
ゴキゲンヨウ





おっと、違う違う。



貴様ツ……！
騙したのか！



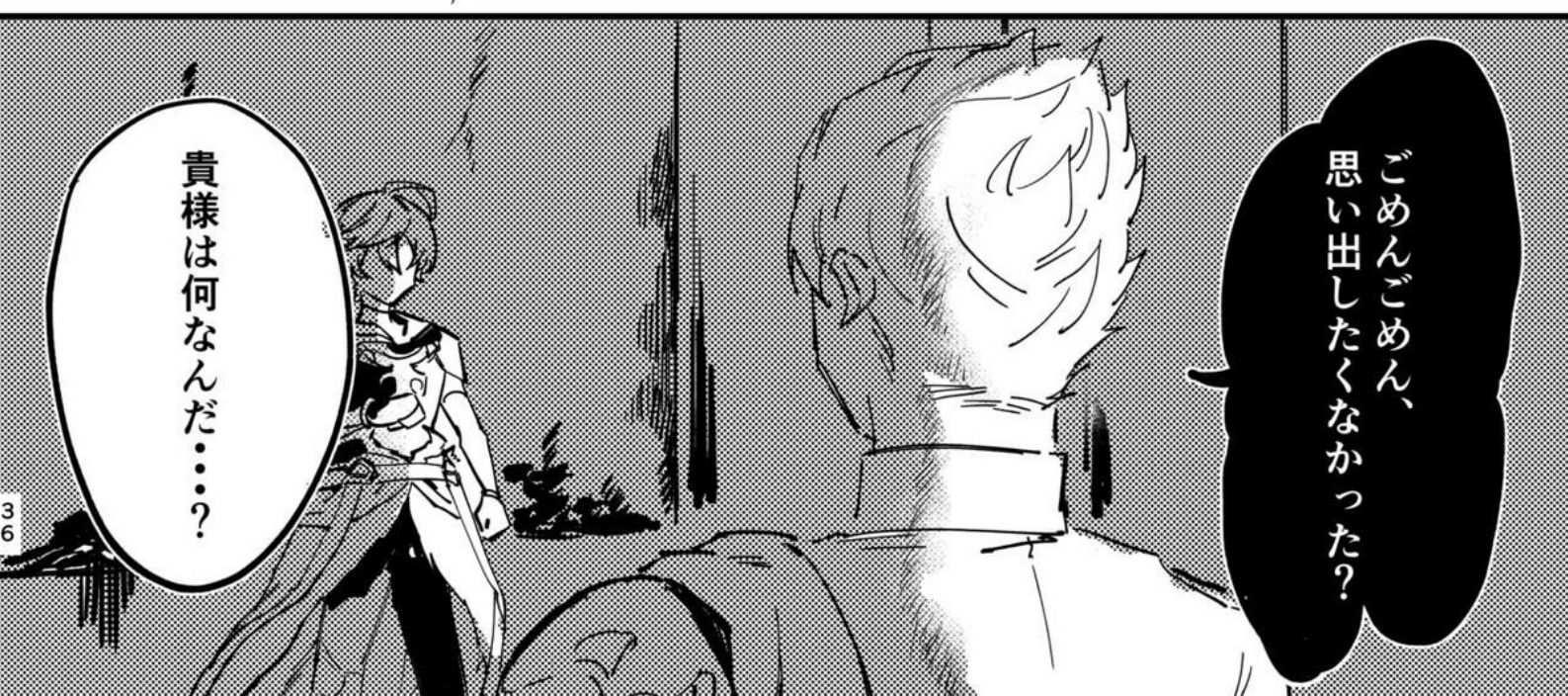
オレはあのオレじゃない。
そうだな……この“研究所”
という記憶の残滓みたいな
モノかな？

それに……



オレはまだキミと
姦淫してないからね

それに？



貴様は何なんだ……？

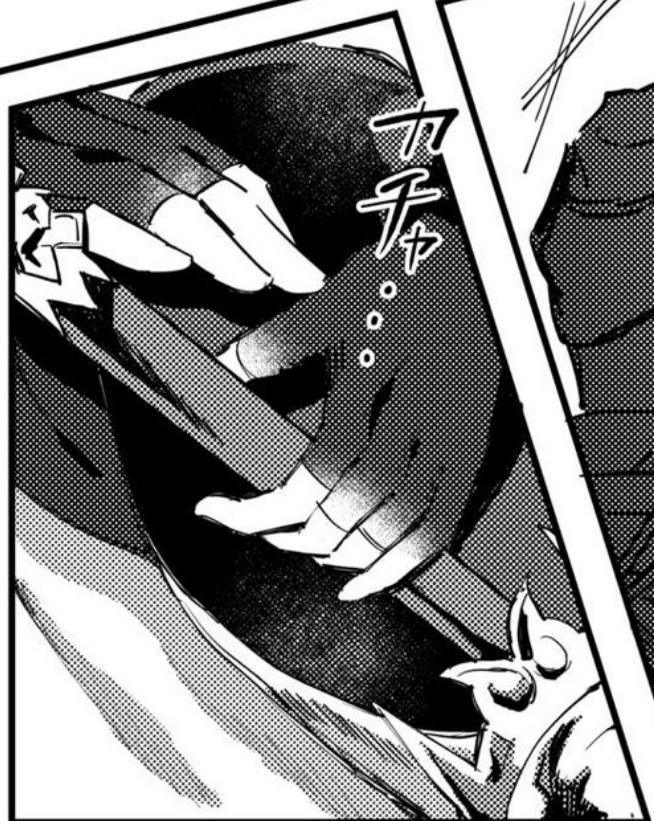
ごめんごめん、
思い出したくなかった？

オレ？

オレはキミに問いかけに来た



そうだな…
手短かに、簡潔に言おうか





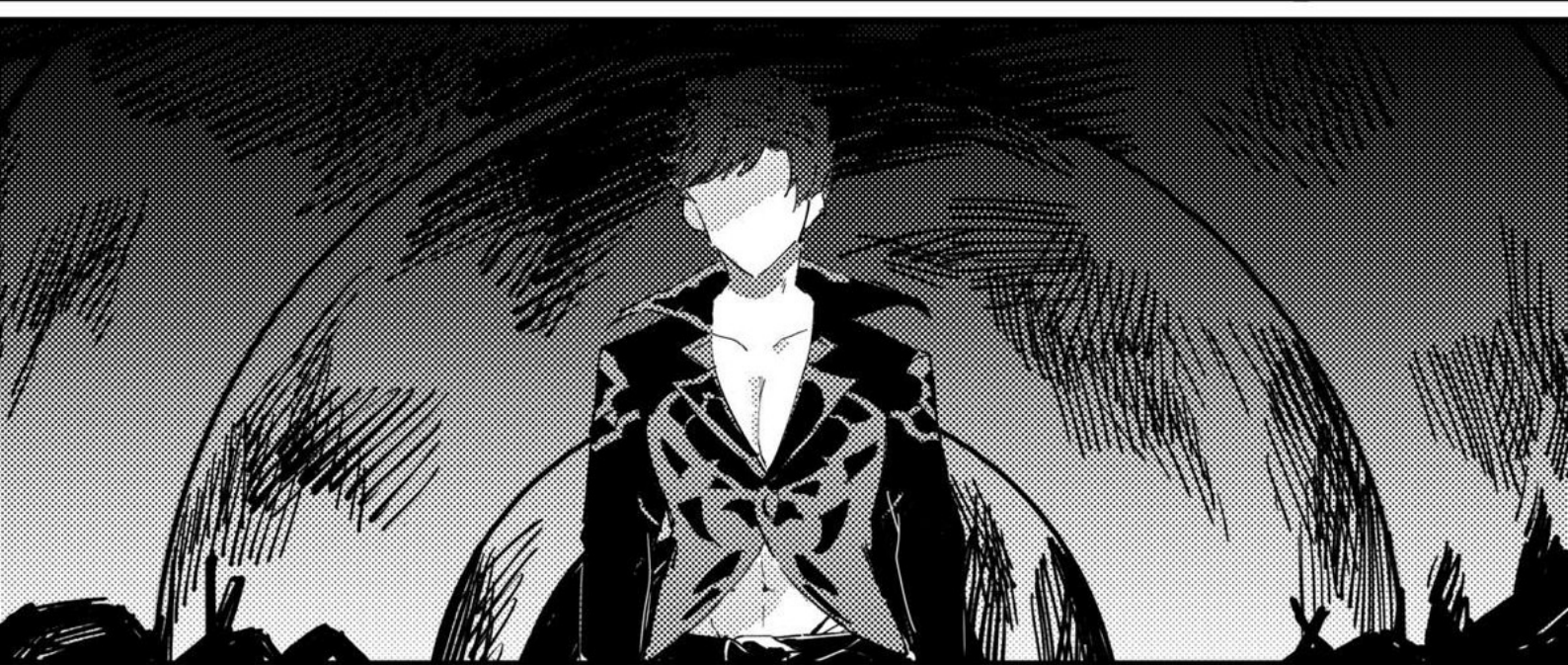
なぜキミはルシフェルの所に
留まらなかった？



この奥の区画では
星晶獣や天司を
使った実験が行われていた

中には苦痛から暴走し、
自我を失うものも見られた

そういった者達は
最奥の施設に
捨てられることもあった





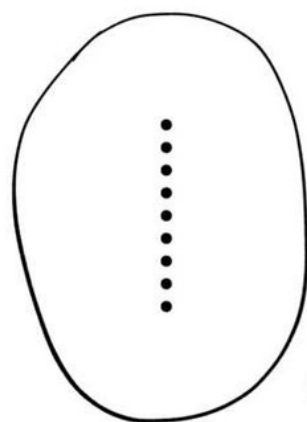


あんたは・・・
なぜ俺を殺さない・・・？



俺じゃない、あの俺だ

キミを？





あの俺の今の状況は
貴様にとっては
好都合だろう？



ああ、
今いない方の



まあ、あのまま見殺しにだって
できただろうし……
そうしないまま殺すことも
できただろうね？

……なら終末を迎えられなかった
無念を晴らせるのでは？



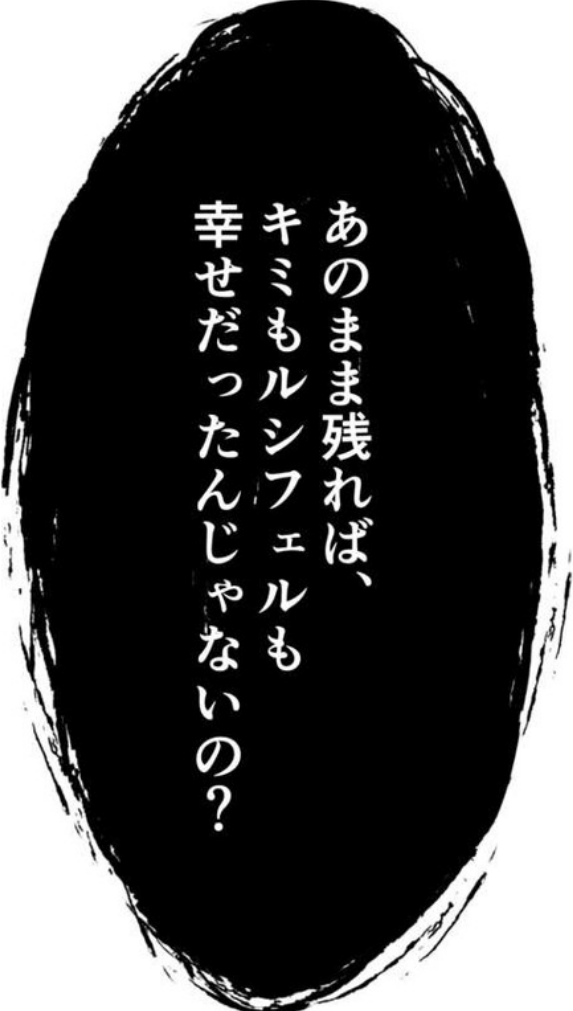


……記憶の一部にしては
いろんなことを知ってるんだね



知っているぞ。

アンタ達が来たから
俺達は生まれたんだ。



あのまま残れば、
キミもルシフェルも
幸せだったんじゃないの？



あんなに親鳥のお側に
つきたいとついていたのにねえ？





もう少し周りを
見た方が良いぜ？

ああ



あゝあ、
避けきれなかったね

「ハッ」



俺は空の民の
進化を見届ける、
そう決めたんだ

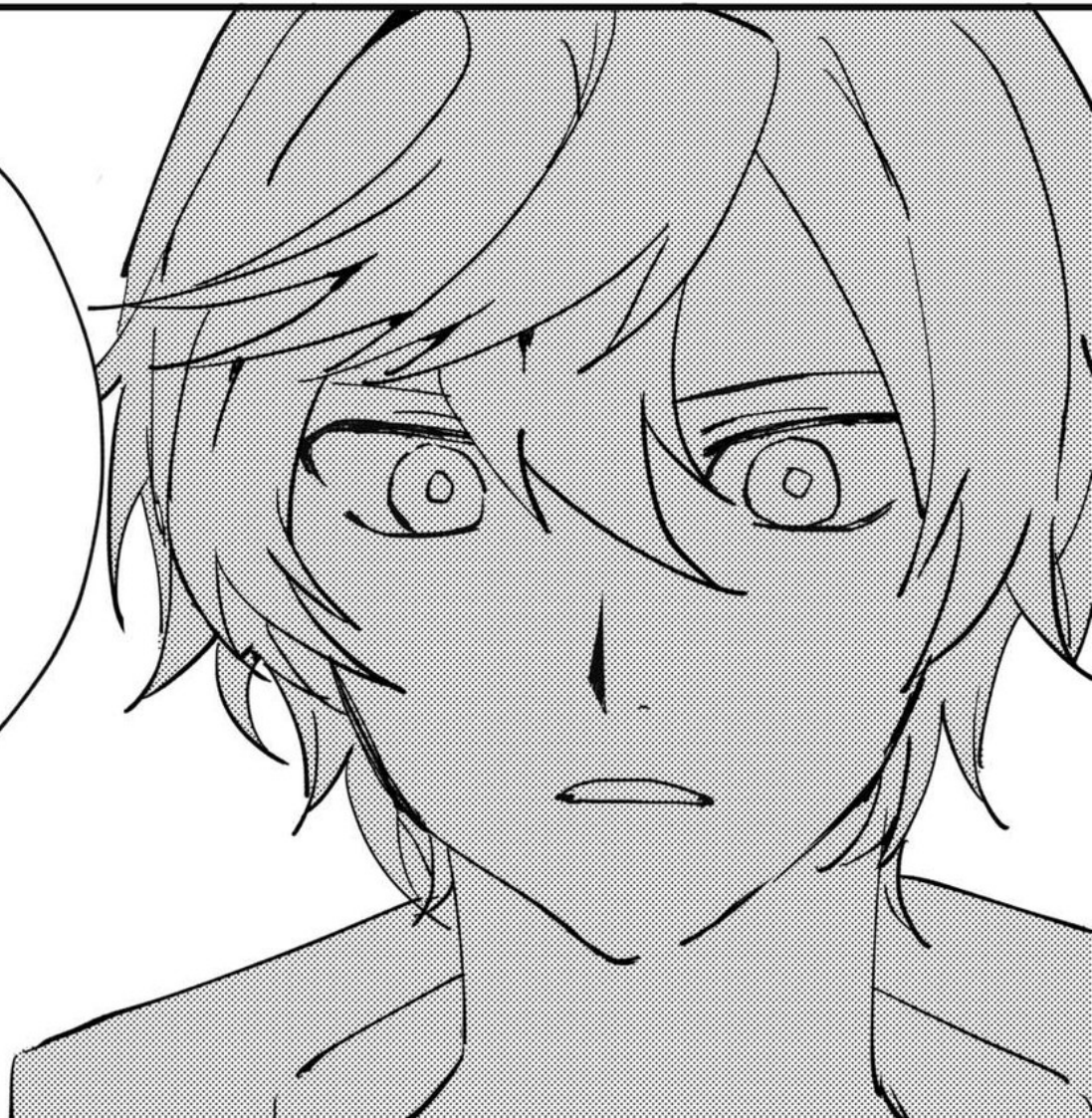
……ほう？
だがそれはルシフェルの
望みだからなのでは？

確かにあのお方が
望んだことでもある…

俺が…俺自身が
そう望んだんだ…

でも最初はそこに
俺の意思は無かった

最初は空の民と過ごす
なんてごめんだと
思っていたんだ…





最初は強引に
引っ張られるような……
そんな感覚だったが

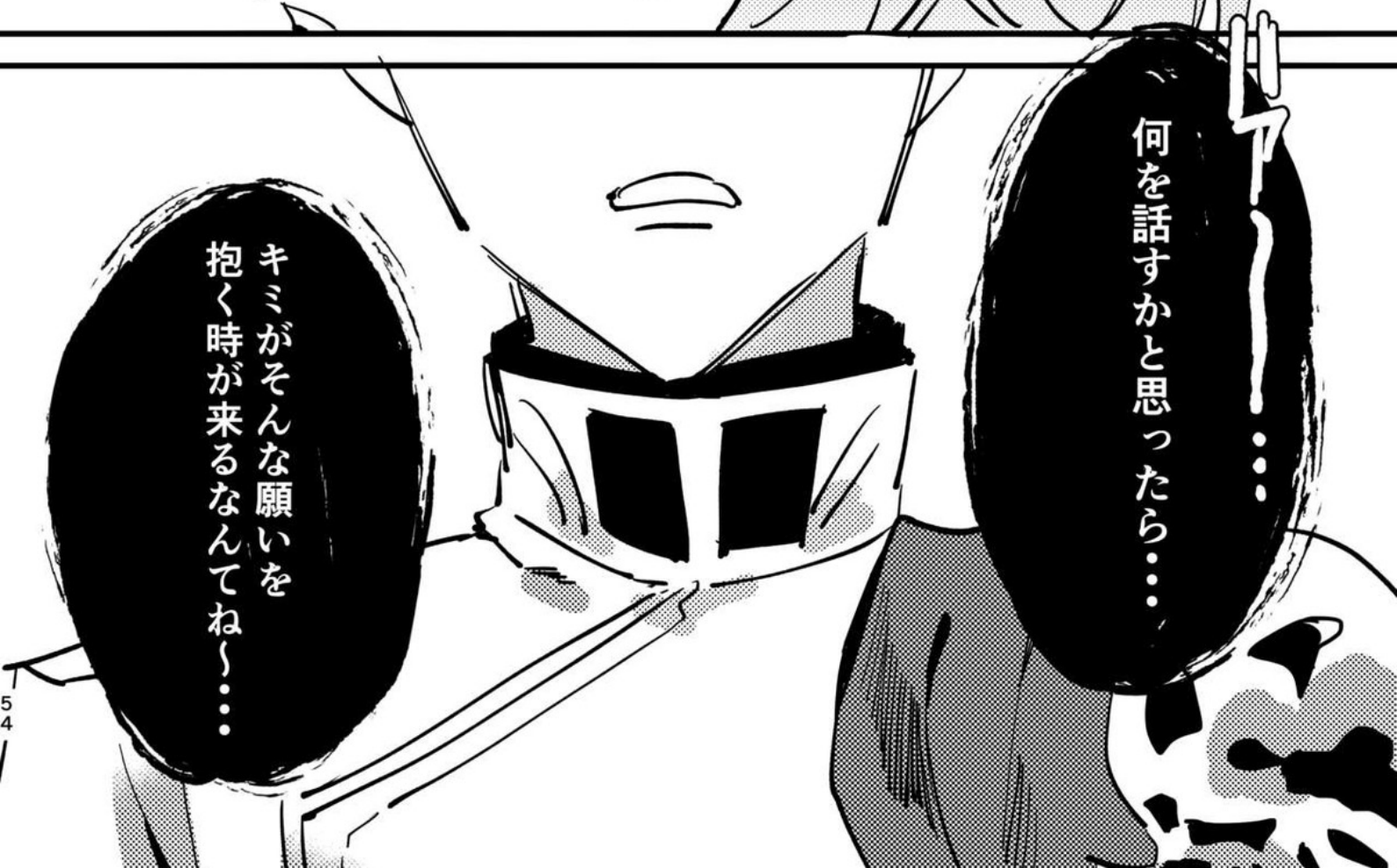
ルリアやビィ……他の
団員達ともふれ合ううちに
不思議と嫌悪感は
消えていったんだ

だが特異で……団長は
俺がしてきたことを
わかっていながらも……
快く受け入れてくれた



だから――

そうかい。



何を話すかと思ったら……

キミがそんな願いを
抱く時が来るなんてね……



反吐が出る





せいぜいやられないようにって
言っただろ？





おい離せ触るな！

まあまあそんな
暴れるなっってー





ああ、何か
いたけど…
放ってきた



貴様…下は
もういいのか？



オレが相手するほどでも
ない子だったからね

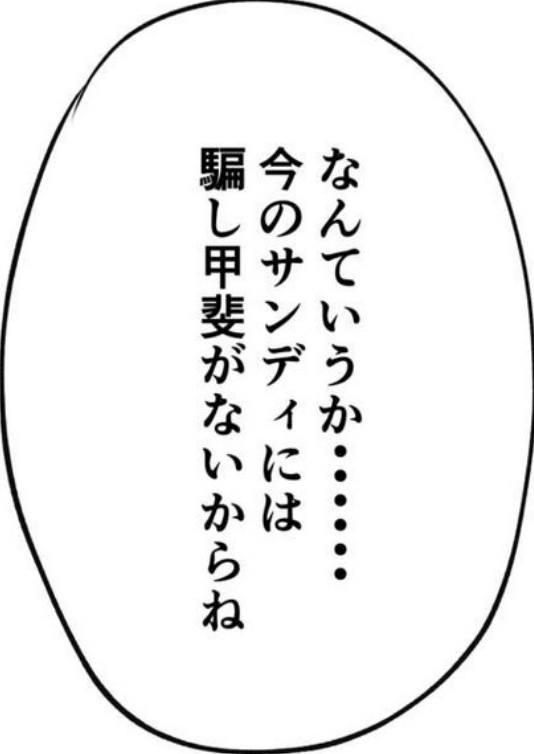


確かに、今のサンディは
魔力を消費するだけで
オレがいないと
立つことすらできない。

このまま魔力切れで
のたれ死ぬのを
眺めるのも
良いんだけど……



それじゃあ
つまらないだろ？



なんていうか……
今のサンディには
騙し甲斐がないからね







しかしサンディを追って見たら……まさか自分がいると思わないだろ？

サンディまだイけるよね？

ああ、羽は片方やられたがまだいける



な、なんだ

いやあ?
全然動じない
なあって

正直早く離れて欲しいし耳で
貴様の息が当たってむず痒いし
本当に早く離れて欲しいと思っ
てるが? それにこういう時ぐ

ごめんて



そうだな...
サンディ、
オレ良い作戦
あるんだけど

ゴニョ ゴニョ





ここにいてね
サンディ

さっきの作戦、
よろしくね

これは……

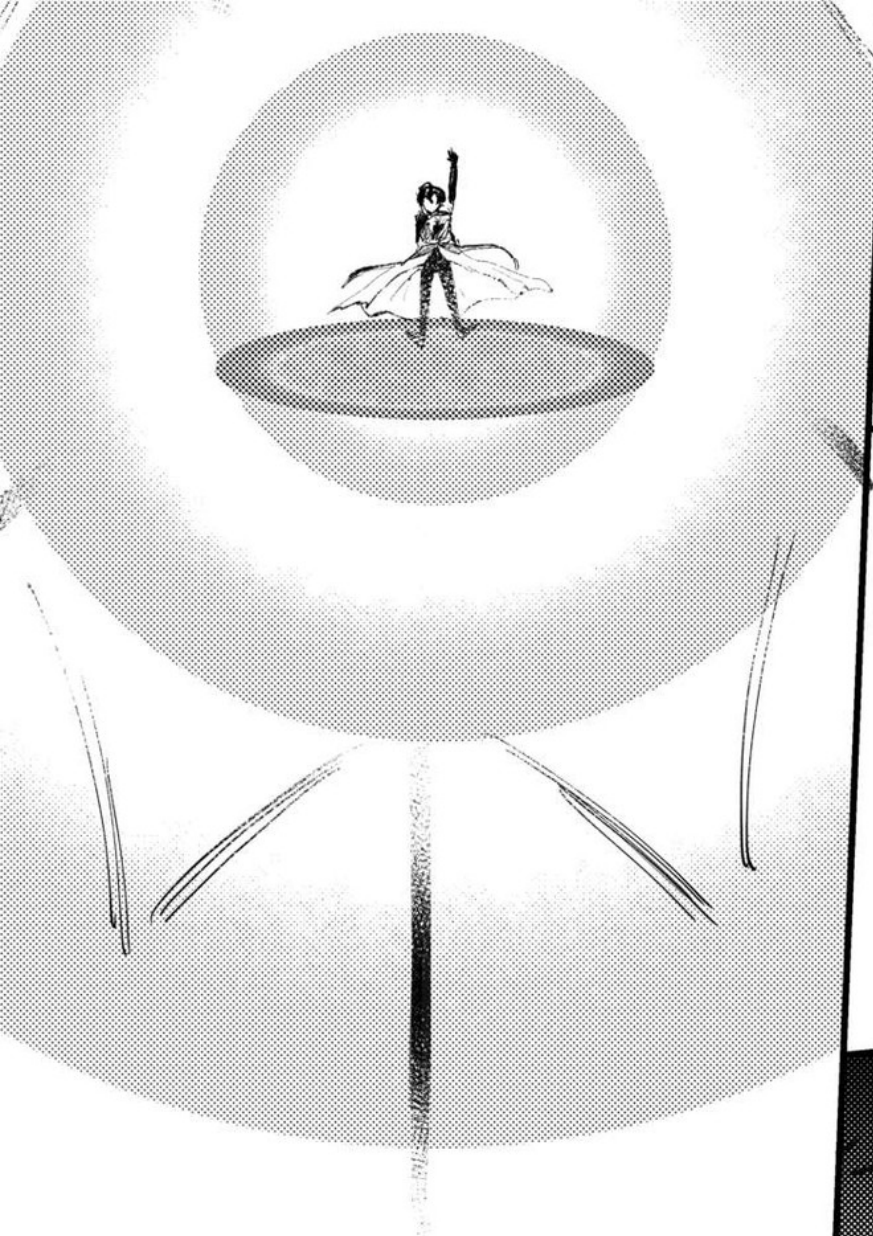


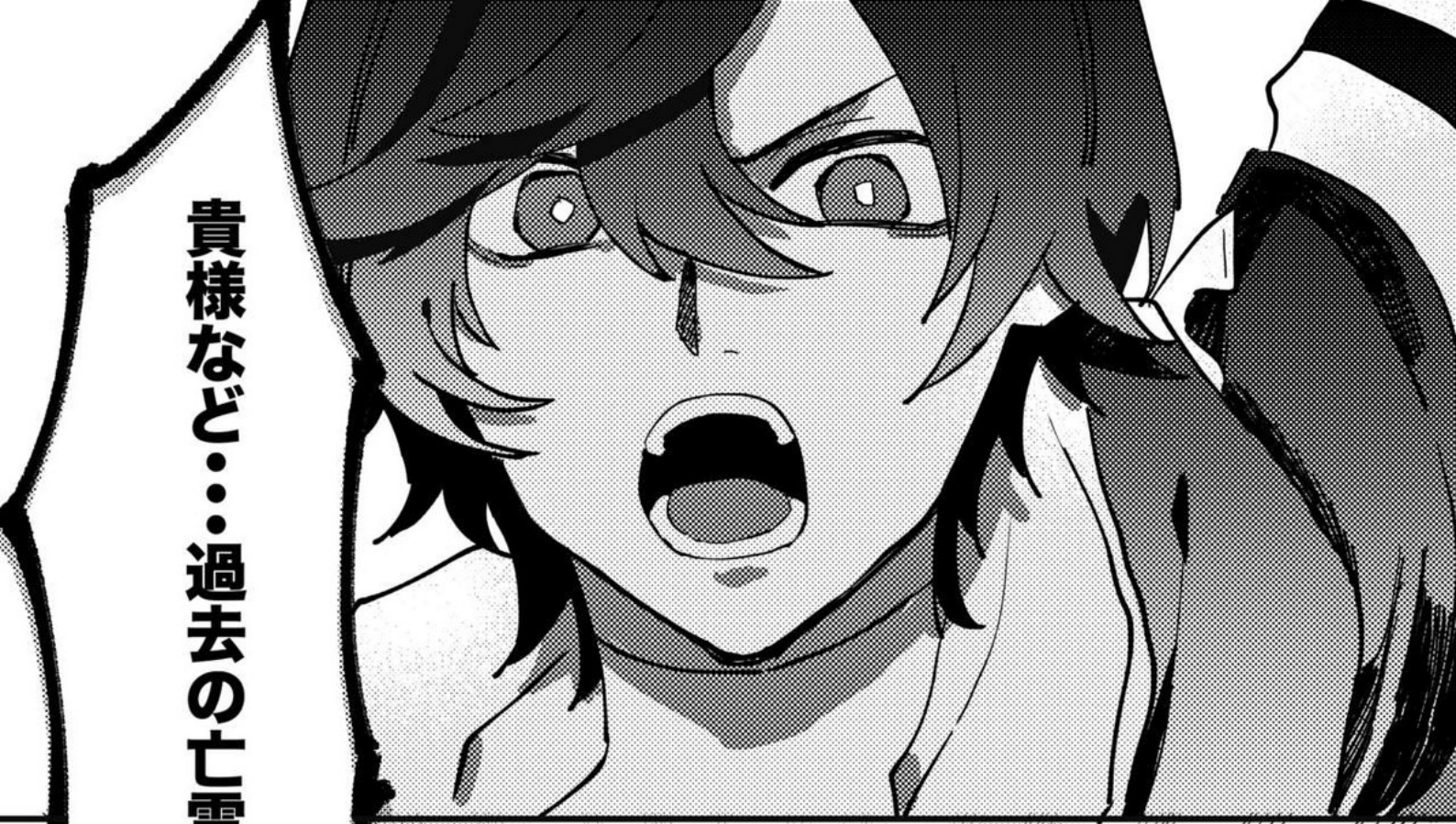
アナゲンネーシス!

おいおいその技はオレには
効かないぜ?

それはどうかな

気でも狂った
のなら――



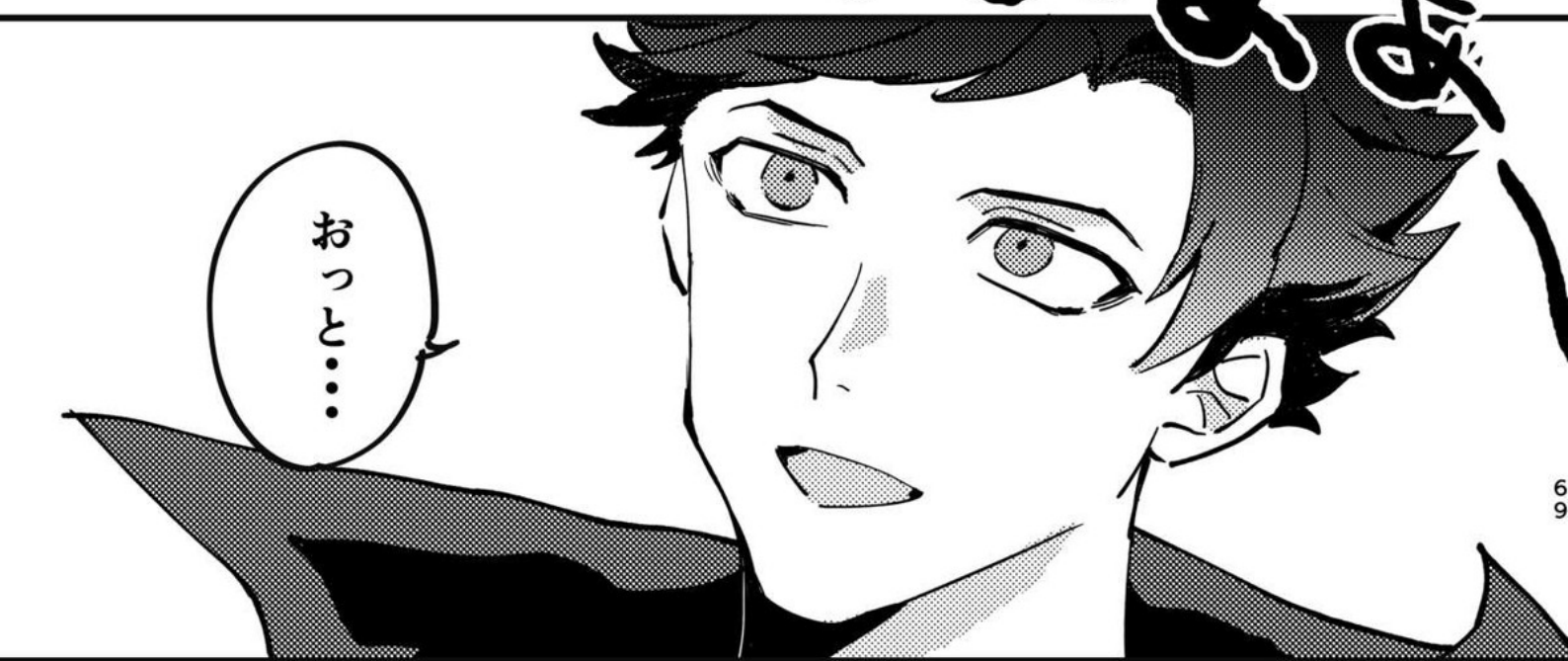


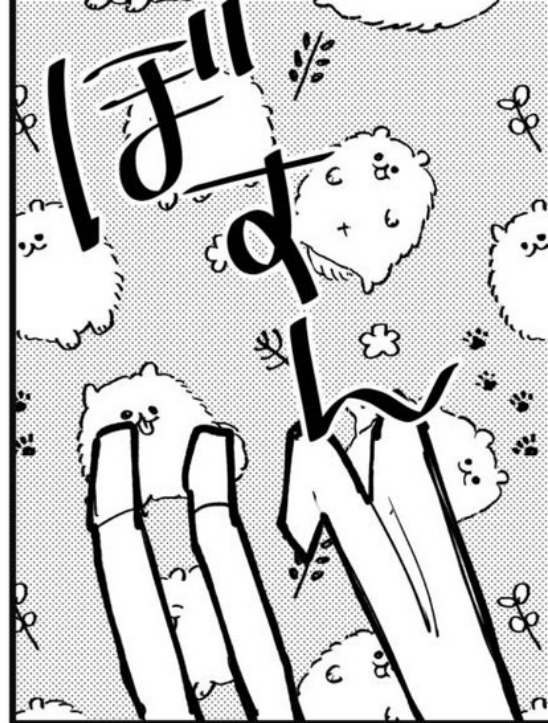
貴様など・・・過去の亡霊など!!



俺が裁きを下してやる!!







アンタは……これからも
あの空の民達と共に
生きていくのか？



それで本当に……
良いのか？



空の民は……そんな
悪いものじゃないよ。

アンタの時の俺は、
そんなこと微塵も
思わなかったが



それに……

また墮天司が
何か企てると
いけないからな？



それに、俺が変わらなければ
何も始まらないし進まない

歩み、寄り添って…
そうやって沢山のものを
知っていききたいんだ



えー



それに…
ルシフェル様に
いってきますと
言ってきたからな



もうここも
限界みたいだ



なあ…







ああ



なれるさ







オレ達すつごく
息ピッタリだったねー

良いパートナーにでも
なれるんじゃない？

誰かなるか

つれないな
少しくらい嬉しい
表情してよ

そんな感情
一ミリも無い
断固拒否だ

あと



貴様、本当に
今までののは
無関係なんだな？



は……？
なぜそんなこと



何もしてないよ、
まあわざとあやしい
素ぶりはしたけど



キミが怒ったり
悩んだりしてる
姿が見たかったんだよ

意味がわからん……

あははは

やっと……
帰れそうだね

そうだね……
あんまり暴れ
られなかったし？

終末が訪れるくらいの
スケールが無いと

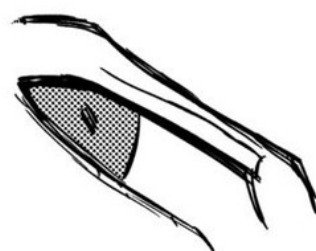
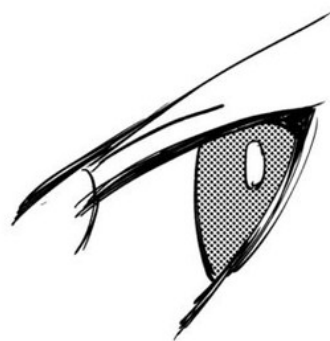
俺達
お
やうとか……

もうこんな事はこりごりだな……

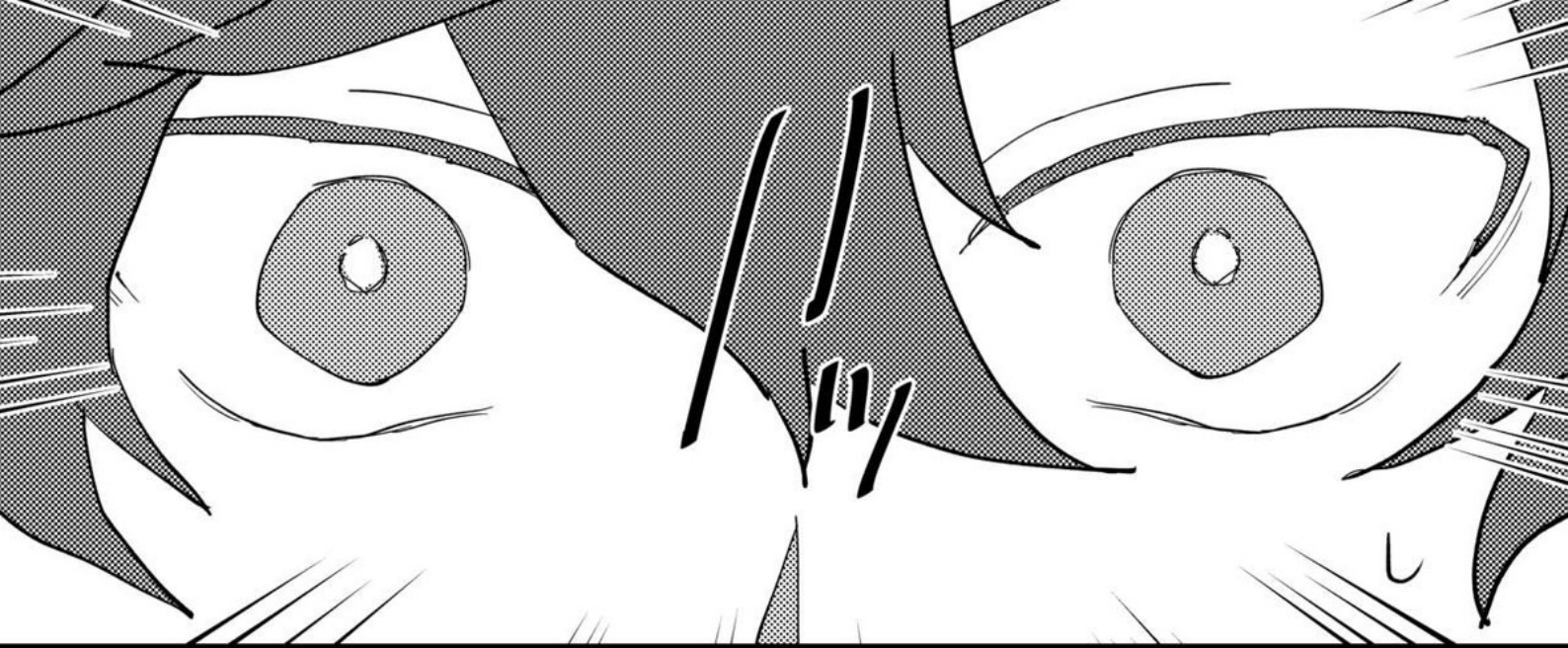
もし、また終末が訪れたとしても



「何度でも」、ね…



終末で会おう



サンダルフォンさん！

わ

あ



サイズ・オブ・ベリアル
4凸済 現在も強化中



すく
いやな
気がする



……



おい！ 団長！ 仕入れられた、
この兵器を救せ！

はわわ……
大変そうです

あいつ、
病み上がり
だったのに
元気だなく

- フィン -

あとがきです まずはお手に取っていただきありがとうございます、
ここまでお疲れ様でした。

思ったより長くなって途中から正気を失いました。

とりあえず描けてよかったんですけど8割フォンが怒ってるので

怒り顔フェチの方向け(?)な漫画になりました。

それに比例してベリアルはめちゃくちゃ笑ってます。笑顔が似合うね

今回の本は

・補佐と天司長、災厄と墮天司を絡ませたい

・エロが描きたい

・なんか二人だけの空間が描きたい

・バトルさせたい

という動機でできました。そしたら長くなりましたが後悔はしてません

今回個人的に解釈が難しい部分が多く描写に悩む部分がありましたが
なんとか描けてよかったです。特に000でベリアルがルシフェル様の話を
していたように、「フォンに対して容赦ない所」を上手く描写できたんじゃないかな
と思っております。個人的に大好きな部分です。

長々と語ってしまいましたが今回は本当にお手に取っていただき
ありがとうございました！ベリサンはいいぞ

by 320

(まとめて箱) QR



感想はこちらから
いただけるとありがたいです!
(泣いて喜びます)

死んだケモノはどこへ行く ベリアル×サンダルフォン

発行日 2019年10月13日

発行者 320(みつお)

@320gogogo

MAIL hokabu3014@gmail.com

印刷 株式会社 栄光 様

この本は同好者の
間だけで楽しむため
に作られた二次創作の
同人誌です。
原作者様・出版社様とは
一切関係ありません。

無断転載・転売・複製・複写・
インターネット上への掲載
(SNS・ネットオークション・
フリマアプリ含む)は禁止です。

